

百葉

Manyok

一冊の会・赤松良子 世界インターネット配信 ～クオータ制について共に語り合う～

太陽が燦々と輝き、ぐーんと気温が上がって過去最高を記録した猛暑の夏。8月の一大イベントとして第7回目を迎える赤松良子・一冊の会世界インターネット配信を8月25日に開催しました。同時に、赤松先生の日遅れの誕生日をささやかながら一冊の会の事務所で祝いしました。久しぶりに太陽がお休みをして恵みの雨を降らせてくれたこの日。やっぱり赤松先生は私たちの恵みの母ねとにっこり顔を見合わせての配信スタートとなりました。

はじめに、一冊の会の大先輩である箱根さんから、マララ・ユスフザイさんの関連記事をまとめた報告をいただきました。マララさんの活動は、全国の櫻華塾で様々に勉強会を開き、学んでいます。今回はその一部を箱根さんがコンパクトにまとめて発表してくださいました。パキスタンで女性の人権を訴え、武装勢力の銃撃にあいながらも負けずに信念貫き、「本とペンが私たちの武器」と語る16歳の少女の勇敢な姿に、私たちも！との決意がにじみ出る引き締まった表情のメンバー達。女性の社会的地位向上と男女共同参画がよりよい社会の一步との思いが強くなりました。



今回のテーマは赤松先生監修の「クオータ制の実現をめざす」です。

大槻会長の御気遣いから、遠方にいるメンバーから順番に・・・と事務所に届くや否や、全国に飛んでいってしまうこの本を、幸運にも手に入れることが出来たメンバーの代表達がそれぞれの立場から思う意見を発表しました。インターネット配信の直前に手にしたこの本を、読み込むには至らずの状態ながらも、エネルギーに自分の意見を述べる若手メンバー達。一方で、荒削りな若手とは一線を画した平間理事の落ち着いた感想は、深みがあり、これから何をしていくべきかを考え、行動していく決意の表れた流石の発表でした。

保健師として働く女性の視点から女性の政治参画を考えるグローリア部の赤田(旧姓高橋)美香子さん。同じグローリア部の村岡清佳さんは、外資系企業へ転職した経験から、グローバルな環境で様々な価値観の人に囲まれ感じる、働きたい女性の在り方と日本の現状についての考えを述べてくださいました。当日、仕事の都合で欠席となったルネサンス部の鬼童貴章さんの感想を代読したのは、ルネサンス部・鹿谷さんです。鬼童さんは二児のパパとして、クオータ制と女性の地位向上に対する男性の視点と本を読んで感じた率直な意見を伝えられました。私も、働く女性として、経済界におけるクオータ制についての意見をのべさせていただきました。お互いが、自分のなすべき事は何か、これからの日本をどうしていくのが良いのかという未来志向で各々の意見を赤松先生に聞いていただきました。それぞれの思いを語るうちにあっという間に時間が過ぎ、当日発表できなかったメンバーも出てしまいました。

赤松先生からは、海外のクオータの歩みと日本の現状について分かりやすくお話いただきました。フランスのパリテ法(男女同数の宣言)の成り立ちと現状、北欧諸国の進んだクオータ制について「クオータ制(割当制)」初心者でも分かりやすい解説を交えながらご紹介くださいました。特に進んだデンマークでは、クオータ制で女性の割合を確保しなくても十分だということで、すでにクオータ制を廃止しているとのこと。クオータ制をまだスタートもできていない日本よりも二段階くらい先に進んでいる現状です。「202030」を実現させるためにも、正に今が日本でクオータ制を取り入れてみる絶好のタイミング。声を上げない事には始まらない!みんなで言い立てようではないか!との赤松先生の熱い思いが会場中に広がりました。世界中のクオータ制を見て、各国がどのようにクオータ制と向き合い、取り入れ、成長してきたのかを時代とともに現場で感じてこられた赤松先生から発せられる思いに触れ、一同、自らクオータ制と向き合い、普及への推進を率先して行動する決意を固めました。また、赤松先生から日本の現状と課題をお話くださいました。日本の教育水準は高く、女性の進学率もかなり高

いです。その一方で、パートなどの非正規職員の割合が高く、結婚して辞める女性は減ったが、子供を生む時に辞める女性はまだまだ多い現状があります。また、男性の労働時間が長く、家事の分担をする余力がないなど、男性の働き方を変えていく必要があるとのお話がありました。（これには、男性陣から最も賛同の声が上がっていました。）女性も男性も、お互いにとってよりよいカタチをつくっていく為に、意思決定の場に女性が並ぶ必要がある、まずは声を上げよう！とおっしゃられた赤松先生。お話を聞いた今日のメンバーと配信をご覧になった皆さまが、この「クオータ制の現実をめざす」を旗印として、全国各地で行動を実践していく最高の船出の日となりました。

最後に、残念ながら時間の都合で当日発表できなかった方の中から、代表2名のインターネット配信当日の感想をご紹介します。

○グローリア部 中本和伸さんの感想

クオータ制実現に向け、赤松先生から制度を導入したフランスでもなかなか男女の比率が同等になるところまで実現できておらず、どの国、どの業界でも高い壁があることを再認識致しました。難しそうだと思うことでも、まず行動する事により課題が見つかるものですから、日本も202030を、物怖じせず進めていく覚悟がなければ変化しないという現実の厳しさを感じました。家庭において、男性が働き、女性が家事で支えるという形で高度経済成長を成し遂げ、日本を強い国にした歴史はあります。しかし現在は、多様性や変化に対応しないといけない時代であり、今までのやり方では成長できないと強く感じております。赤松先生から、日本では長時間労働で男性も帰宅後や休日にも疲れており家事をする余力がない現実があると伺い、男女とも意識を変えないと、取り組む姿勢が変わらないと強く感じました。男も職場や家庭で女性をフォローする、女性は意欲を持って仕事を続け、政治にも興味を持つなど、男女ともに覚悟が必要だと思いました。意識を変えるために私め取り組める事は、まず知識、経験を積み、周りに意識付けできるようになること。そして社会、組織が発展するビジョンを練って伝えていく事だと思います。そして自分が我が社の人事に物が言えるぐらい役割を帯びるレベルに成長することを目指していきます。



○グローリア部 佐藤（今元）佑美の感想

今回のインターネット配信では、「クオータ」制について熱い議論が交わされました。私は今回「赤松先生監修の「クオータ制の実現をめざす」を読み、クオータ制について学びました。赤松先生のお話の中で一番印象に残っていることは、今の日本の現状から「202030」を達成することは難しいけれど、だからと言って何もしないのではなく、目標に向かって行動していくことが大切である、ということでした。先生の熱い思いを受け、私は自分自身の将来を考え、行動し、そしてクオータ制について多くの友に伝えていきます。

また、赤松先生のお誕生日をお祝いし、お元氣な姿を拝見することができて嬉しかったです。そして、元氣を頂きました。赤松先生を囲んで参加者全員で食事をした時間は天にも舞い上がる気持ちで楽しいひとときとなりました。（当日は思いもしなかったサプライズで、私の結婚を赤松先生をはじめ、一冊の会の皆様にお祝いして頂き、驚きました。多くの仲間にお祝いして頂けたことがとても嬉しかったです。赤松先生のお手からいただいた真っ赤なバラは大切な宝物となりました。ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。）お祝いをみんなで喜び合うことができ、私は幸せです。これからも一冊の会の仲間と共にさまざまなことを乗り越え、学んだことを活かし、社会貢献に尽くせる人材に成長して参ります。

今回も影の裏方に徹して下さった沢山の先輩方、撮影班のみなさま、美味しい手料理を振る舞って下さったメンバーから、お話だけでも当日事務所へ駆けつけられてメンバーまで赤松先生を囲んで、大きくはない事務所は満員御礼のにぎやかな会となりました。多くの方に支えられて今回も無事、赤松良子・一冊の会世界インターネット配信が終了しましたことを御礼申し上げます。ありがとうございました。

一冊の会櫻華塾では、50周年までに1000人にクオータ制について語り合うことを目指し、一致団結して取り組みます。そして、女性の社会的地位向上と男女共同参画によるよりよい社会に向けて、声を上げ、発信していきます。

文責：瀧